

【仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校】

仲間を大切にし、伝え合う力を伸ばす体験活動

周南市立夜市小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：6学級
- 生徒数：112人
- 教職員数：10人
- 活動の対象学年：5年生 18人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 周南市の中心地より西へ約10kmの所に位置し、利便性が比較的良好、校区には多くの田畑が存在する。
- 周辺には、自然が多く残り、地域の祭りなど伝統行事も受け継がれている。
- 地域は、学校教育に大変理解があり、隣接学習田でのものづくり体験活動や学校行事等に地域の多くの人々の協力がある。

③ 連絡先

- 〒746-0018  
周南市大字夜市730番地
- 電話：0834-62-2711
- FAX：0834-62-2700
- ホームページ：<http://www.shunan.ed.jp/yajisho>
- 電子メール：yajisho@shunan.ed.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 豊かな大自然の中で諸体験活動を通して、感性を磨くとともに自然への畏敬の念、自律の精神、最後までやり抜く強い心を育てる。
- 永年かけて先人が創造した文化や文明にふれる体験活動を通して、先人の知恵や努力、歴史や伝統の価値を感じさせる。
- 家庭を離れ共同生活をし、体験活動を通して、学校生活では見えないお互いのよさや特性を知り心のつながりを強化する。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然にかかわる活動  
(総合的な学習の時間10単位時間)  
(特別活動16単位時間)  
(体育1時間)
- 文化や芸術にかかわる活動  
(総合的な学習の時間2時間)  
(特別活動12時間)  
(音楽1時間)  
(家庭2時間)
- 交流にかかわる活動  
(特別活動6時間)  
(総合的な学習の時間8時間)  
(国語2時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ・ 児童が家庭を離れ豊かな自然の中で共同生活をし体験活動を通して、学校生活では見えないお互いのよさや特性を知り、心のつながりを強化する。

- ・ 児童が主体的に豊かな大自然の中で諸体験活動を通して、感性を磨くとともに自然への畏敬の念、自律の精神、最後までやり抜く強い心を育てる。また、家族や友達、宿泊施設の人など、多くの人々への感謝の心、奉仕の心など美しい心を育てる。
- ・ 永年かけて先人が創造した文化や文明にふれる体験活動を通して、先人の知恵や努力、歴史や伝統の価値を感じさせる。

○ 全体の指導計画

- ① 活動の名称 仲間を大切にし、伝え合う力を伸ばす体験学習
- ② 実施学年 5年
- ③ 活動内容、教育課程上の位置付け、期間（単位時間数、日数、泊数）

活動月日	活動内容	教育課程上の位置付け	時間数等
5月30日～6月12日	○宿泊学習の活動内容や準備物、役割分担等について話し合う。 ・活動内容やめあてを決める。 ・大田原のことや体験活動のことを調べる。 ・グループ分け、活動の手順、役割の分担等を確認する。 ・キャンドルサービスの計画及び練習をする。	総合的な学習の時間 国語 音楽 体育	10時間 2時間 1時間 1時間
6月13日～6月15日	○周南市大田原自然の家で、仲間と協力しながら、様々な体験活動をする。	特別活動	22時間 2泊3日
6月18日～6月26日	○宿泊体験学習の様子をまとめ、児童朝会で発表する。 ・お世話になった方にお礼の手紙を書く。 ・草木染めをランチョンマットにしたり、栽培した麦を加工し、講師を招いてうどんを作ったりする。	総合的な学習の時間 家庭科	4時間 2時間
9月28日	○県農林総合センターで「はなっこりー」について学習し、苗を機械で植える体験をする。	特別活動	2時間
1年間 (4年秋～5年)	○「麦」「はなっこりー」などの栽培体験活動（ものづくり体験活動）を、校内の学習園、一鉢、学校隣接の学習田で実施する。	総合的な学習の時間 特別活動	4時間 10時間
6月 10月 2月	○体験活動の成果を、「感謝と奉仕の会」で、学校支援委員会や保護者、地域の人に発表する。	特別活動	6時間
2月	○活動を振り返り、自己の変容をまとめる。	総合的な学習の時間	2時間

## 2 活動の実際

○ 事前指導

- ・ 児童一人ひとりにめあてをもたせ、主体的に活動できるよう、内容について調べさせ必要な物等の準備をさせた。

○ 活動の展開（宿泊学習）特別活動 22時間

### 6月13日（水）第1日目

活動内容	場所	活動状況	指導者・協力者	教材・教具
ハイキング (ミニウォークラリー)	川本～大田原	各グループが、マップとチェックカードを持ってスタートし、途中のチェックポイントで大田原の自然や学校にかかわる問題に答えながら「大田原自然の家」まで、約4kmの道のりをハイキングした。	教諭3名	マップ、カード
草木染め	自然の家	蓬を摘み取り、木綿布を染めた。糸やゴム、割り箸などを使いオリジナル作品に仕上げた。	大田原職員1名 教諭3名学生3名	木綿布、蓬、なべ、ばいせん液、はし、ゴム、割り箸
ストーンアート	自然の家	ハイキングの途中に集めておいた石に色や模様をつけた。	大田原職員1名 教諭3名学生3名	石、絵の具
風呂焚き	自然の家	割った薪を使って、五右衛門風呂を焚いて入浴し	大田原職員1名	薪、なた、五右

(薪わり、炭火おこし)		た。	教諭 1 名 学生 1 名	衛門風呂
キャンドルの つどい	自然の家	各グループがあらかじめ準備していたスタンツを発表した。卒業する自分へ宛てたはがきを書いた。	教諭 3 名 学生 3 名	火の神の衣装、ろうそく、しおり、CD、はがき

#### 6 月 14 日 (木) 第 2 日目

活動内容	場所	活動状況	指導者・協力者	教材・教具
野外炊飯 (ナン&カレー)	自然の家	各グループで飯盒炊飯をした。野菜係、薪係、ナン係が役割を分担して作り、おいしくいただいた。	大田原職員 2 名 教諭 3 名 学生 3 名	なた、かまど、なべ、包丁、シート、めん棒等
室内ゲーム 工作	自然の家	宝探し、室内ウォークラリー、友達作りゲーム、紙飛行機作り等を行った。	大田原職員 1 名 教諭 3 名 学生 3 名	解答用紙・紙工作材料 はさみ、のり等
ナイトハイキング	自然の家 ~2km周辺部	大田原自然の家から北 2km のところまで、夜の自然を散策した。	教諭 3 名 学生 2 名	救急道具、時計

#### 6 月 15 日 (金) 第 3 日目

活動内容	場所	活動状況	指導者	教材・教具
ネイチャーゲーム	自然の家 ~れいか広場	耳を澄ませて、聞こえてくるものを絵に描いた。自然ゲームを行った。	大田原職員 1 名 教諭 3 名	紙、マジック
掃除	自然の家	施設の清掃を丁寧に行った。	教諭 3 名	掃除道具

#### ○ 事後指導

- ・ 宿泊学習で学んだことや感じたこと等を各自が作文にまとめた。
- ・ 各グループでテーマを決めて集団宿泊の様子を創作劇にし、児童朝会で発表した。
- ・ ナン作りの体験を生かして、自然の家から講師を招き、刈り入れた麦を加工してうどんをつくり、保護者や教員とともに食した。
- ・ 草木染めの作品を家庭科学習の発展としてランチョンマットに仕上げ、各家庭で活用している。

### 3 体験活動の実施体制

#### ○ 学校支援委員会

本事業を推進するにあたり、学校支援委員会（「夜市小ものづくり体験支援委員会」、校長、教頭、PTA 会長、校内担当者）を立ち上げ、関係団体への事業説明、協力依頼、活動の案内等の連携を図った。特に、地域ボランティア「麦っ子クラブ」に対しては、本体験活動推進にあたり、事業の趣旨や予想される効果、本校の構想などを説明し、大きな協力を得た。連絡調整については、担任が連絡を密に取り、麦の収穫や脱穀の時期を決定した。また、中心事業である大田原自然の家での宿泊学習を行う事に関しては、電話やファックスを利用して、「自然の素晴らしさに触れる体験をさせたい」という意向を伝え、実際に自然の家を訪問して活動場所を確認のうえ直接職員の方と綿密な協議も行い、活動内容の詳細を決定した。

#### ○ 配慮事項等

まず、保護者への事前説明会を行った。次に、養護教諭と相談の上、児童の健康状態で気になる点等についてアンケート調査を行い、健康状態の把握に努めた。その結果、喘息のある児童や食物アレルギーの児童、薬を服用しなければならない児童などを把握した。そこで、自然の家と連携しアレルギー食への対応や緊急時の対応等について、万全の体制を整えた。

### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- しおり（自己評価カードを含む）を作成し、児童の主體的な活動となるように配慮し、必ず活動の振り返りを行わせた。振り返りの方法は、各活動で期待する児童の姿から設定

した評価項目を自己チェックしたり、活動に関する思いや気付きなどを自由に筆記したりすることを中心に据えた。

- 各体験活動にP D C Aサイクルを取り入れ、特に、C（点検・評価）の場面では、児童同士の話し合いを取り入れることにより、体験が体験だけに終わることなく、次の活動のA（改善）に繋がるように配慮した。また、教職員は、話し合いの場面で、個々の良さを認め、グループ全体へその良さを広げるべく、積極的に話し合いに参加した。
- 教職員は、1日の活動が終わると、活動を振り返り気付きを意見交換した。より主体的に児童たちが活動できるように指導方法を中心に検討した。特に、児童同士のかかわりについて配慮すべきという意見が多かったことから、児童同士がより円滑にコミュニケーションを図ることができるように、教師が積極的に声を掛け支援に努めた。

## 5 活動の成果と課題

### ○ 成果

豊かな大自然の中での活動を通して、児童から「草で布に色が付くなんてすごい。」（草木染め）や、学校や家庭の生活の中では感じられないでいた風の音や鳥の声に気付き「自然にはいろいろな音や声があるんだね。」（ネイチャーゲーム）などと、感激の声が聞かれた。こうした児童たちの驚きや喜びは、自然の偉大さを五感を通して感じる事ができたと考えている。

技術・技能の伝承活動においても大きな成果があった。児童たちは、より鮮やかに布を染める方法や、より火を大きくする方法があることなど、長年の経験に基づく知恵によって作られてきた伝統文化に触れ、大きな感動を得た。

本体験活動で、一番大きな成果は、日ごろの学校生活では見たり感じたりできにくい友達のよさを発見し、友達の大切さを感じたことである。ナイトハイキングで暗闇を怖がる友達に声を掛け、キャンドルの集いでは「スタンプの成功がみんなの協力の成果だ。」と話す児童もいた。また、友達と意見が食い違った時に、以前は喧嘩に発展することもあったが、話し合っ解決することを学び、コミュニケーション力が向上した。そして、食事を作ってくれた人や自分たちの活動を支えてくれた人々などに対する児童の感謝の気持ちが、食事の準備や後片付け、奉仕の清掃活動などに一生懸命に取り組む主体的な姿として現れたことはうれしい限りである。

以上が、児童の姿から実感した成果である。保護者からは、「宿泊体験を終えて、親子の会話が増えた。」「自主的に物事に取り組むことができるようになった。」など、子の成長を喜び、活動の成果が学校生活とともに家庭生活にも実感されている。

### ○ 課題

成果の欄で述べたように、本事業を推進することによって、児童たちは大きな力を付けた。今後は、児童が宿泊体験等で培った様々な力（自主・自律・協力など）を、学校生活等で発揮するよう実践力を高める指導について、他教科、道徳等と関連させた研究が必要である。また、低中学年から、系統的な指導体制を確立することも重要になる。